
土と火の戦士

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

土と火の戦士

【Zコード】

Z0090Z

【作者名】

フニックス

【あらすじ】

ウエストホース。ならず者の住みか。その大陸に保安所があつた。保安官レオ・バレッタは幾多の試練を乗り越え、極悪人、ショットガンナーにたどり着いた。

土と火の戦士

レオ・バレッタはチャンクと同化し、アーマードバレッタとなりマリアが覚醒させたショットガンを背負い、飛び立っていた。

「あれは、アインシャーク三世。聖騎士ロキ。彼等も来ていたか？チャンク。合流しよう」「オーケイ！待ってくれ！アインシャーク」

「フン。ゴッドインパルス。彼も来たぞ。あの姿で。アーマードバレッタ」「土の神ライドーの後継者、バレッタ。さすがだ。精神が充実している。初めて会った時と違うな」「オオ。あの気迫、気高さ。彼も覚醒したか。遅れを取るな！ロキ」「ゴッドインパルス。人は絶望の沼に浸かる時がある。それが仲間の死だったり、守るべき絆だったりする。沼は底なしだ。だが、そこから這い上がつて来た蝶は美しい。なぜかわかるか？それが生命の可能性だからだ」「可能性か？強く舞うのも底で溺れるのも可能性か？」「その通りだ」

ロキとゴッドインパルスはレオと合流した。

「アインシャーク。いや、ロキ。遅くなつたな。もう大丈夫だ。俺とチャンク。それにマリアとミサトの魂を受けた者、アーマー

ドバレッタ。これより貴公等に加勢する。遅くなつたな。もう大丈夫だ」「なるほど。絆か？お前を再び舞い上がらせた原動力は」「そうだ。そいつは？」「紹介しよう。火の神の遣いアドニス。それが死を越える存在、死超星の宝珠と出逢い覚醒した。彼はゴッドインパルス。神の衝撃。正義の刃」「ゴッドインパルスか。良い名だ。行こう。奴を倒しに。ショットガンナーを倒しに」

三人は盗賊団のアジトへ向かつた。保安所のボスはその光景を見ていた。「見てるか？マリア、ミサト。彼等が奴の元へ向かつた。レオはすっかり逞しく產まれ変わった。君達のお陰かな？」ボスは暑い陽射しを見上げながら煙草に火をつけた。

「出てこい！ショットガンナー！俺は戻ってきたぞ！お前と決着を着ける為に！」「ホウ。負け犬が！随分な威勢だな。返してもらうぞ。俺の武器、ショットガンを！三年前の屈辱を付けて！」「ショットガンナー！お前は黄泉の掟を破つた。地獄すら温いわ！お前行く先は、無限の闇。闇の森でさ迷うが良い」「ゴッドインパルスが二刀流を構えた。「邪魔するぞ。ショットガンナー。レオ。気のすむまでやれ！俺達は目撃者になろう」ロキがゴッドインパルスの前に立ち、レオの道を開けた。「レオ・バレッタ。復活の祝いだ。受け取れ」ゴッドインパルスは二刀流で結界を作り、ショットガンナーの魔力を中和した。「コツ…………これは？なんとゆう事だ！我輩の力が中和されていく。貴様は？」「死超星の力。知っているだろ？お前の通つた道だ。お前は三年前死んだ。レオ・バレッタの

力に敗れた。その時、霸王、仁王と出会つたな。彼等にもらい受けた。彼等からの警告を伝える。ショットガンナー。お前はここで終われ。以上だ。さあ始めようか？」

ショットガンナーの兄、トップガンナーはその光景を見ていた。

「あの器も限界か。棄てよう。奴の敗けだ。改造人間ROUSE隊の隊長か。脆き器よのう。人智を越えた存在とは人体実験の結果では無いのか？」

続く

土と火の戦士 その2

レオ・バレッタは再びショットガンナーの前に立ちふさがった。

その頃、上層部も出撃の仕度をしていた。

「良いか。今回の任務はショットガンナーの始末。そして改造人間の始末だ。その為なら手段を選ばない。必ず始末するのだ。生かしておけばいずれ我々の障害になる。ここで始末するのだ」「元老院様。もし今回の任務で失敗したら…………」「その時はこの兵器がある。良い実験になるのだよ」「左様ですか？ですがあの兵器はまだ研究段階です。まさか大陸の生態系を変える生態兵器など…………」「……最終的な判断はワシがする。まずはどこまで押さえられるかだ。判断はそれからでも遅くはない」

「レオ。一つわからない事がある。教えてはくれないか？なぜ人間はもうい？」「もうい？いや、違うな！お前は知らないだろ？が弱き者だからこそ可能性があるのだ。可能性があるから寄せ集まるのだ！それがわからんお前は既に終わっている。三途の川の渡し賃程度に教えてやるさ」「ホウ。可能性な。面白い。人の可能性など兩水にも足らん事を教えてやろ？ではないか？」

ショットガンナーの気迫が上がる。森がざわめき鳥は飛び立つ。その合間に縫つてレオは飛び上がる。鳥を踏み台にし、高く舞い上がった。

ガツシユッヒ音を立て、レオの両肩のバズーカーがターゲットを狙う。

「ウン。安定している。その調子だ。レオ」レオと融合したチャンクが彼の精神で語りかける。「チャンク！火を放て！」「ヨツシャ！イッタレー！」

ズバーン！

大陸を揺らす様な衝撃が走る。

「なんて衝撃だ！アドニス。大丈夫か？」「アア。なんとかな。殺つたか？」「いや、爆風でわからない」

ショットガンナーは銃弾を手のひらで止めていた。そのままクルッと飛び乗り銃弾をかけ上がる。空中でレオを追いかけ二人はクロス

する。

「さすがだな。我輩が認めた男はそうでなくてはな。今の攻撃でわかつたさ」「死を飲み込んだ男の力だ！お前にはわかるんだろう」「ホウ。死線を越えた力か？なら我輩も見せなくてはいかんな。ショットガンナー！オーバーデッドモード！」

鈍く緑に輝くショットガンナーは既に人の姿ではなく獣の姿だった。腕に一本の爪を持ち、狼の様な顔立ち。筋肉は躍動し、トゲの様な鱗を背負った男。

「ガウルルウッ！これが俺の姿だ！見せたのはお前が初めてだがな。正直恐いよ。初めての実戦でね。さあ、始めようか。盟友よ」「ちよつと良い。そうでなくてはな。人間のお前とは既に決しているのだ。三年前のマリアが死んだあの日」

二人は宙を飛びながら会話をした。

「元老院様！空を『』覗ください」「なんだ？あの野獸は？それにある男。何者なんだ？」「奴はレオ・バレッタ。この大陸の保安官です」「…………と言つ事は、一緒にいる奴が…………」「おそらく……ショットガンナー。常人に出来る業ではありません」

「レオ。少し腕試しがしたい。良い実験体がいる。待つていろ。邪魔者を蹴散らしに行く」「止める！ショットガンナー！これ以上被害者を出すな！」ショットガンナーはレオの話を聽かず上層部に襲いかかる。

グオラアウ！

大きく泣き叫び腕を伸ばす。彼の腕に触れた兵士が次々に倒れていく。腕を元に戻し、倒れた兵士の血を舐める。「ヒツ……ヒー……打て！ウテーイ！」ズガガガガガツ。兵士たちは拳銃を構える。体にめり込んだ銃弾を弾き返すショットガンナー。再び倒れていく兵士。「ヒツ……ヒー……引け！ヒケーイ！全軍後退！」

ガウルルウツ！

超人的な跳躍力で跳ね上がり、爪で貫くショットガンナー。

「ザット200。そんなもんか？弱き者よ。立ち去るが良い。今な

う伝えられる。我輩の力を！」

「なんとこう惨劇。一瞬で上層部を蹴散らしやがった。奴は進化している。三年前より」「レオ！しつかりしろーお前には絆がある！仲間達の。散つていった戦友の！」

「ウオーミングアップは充分だ。さあ、行こうか？レオ君。俺達の次元へ」

「元老院様！ご報告致します」「しなくて良い！クッ……完敗だ。我々が甘かった。奴は既に人間を越えている。後は……この大陸ごと爆破するだけだ。任務失敗」「元老院様。ご決断を」「サテライトの使用を許可する。生態系を完全消滅させる生物兵器サテライト。今すぐ発射準備を」「ですが元老院様。あれは開発途中で……」「良いんだ！責任は私が取る！ここで食い止めるのだ！」「…………かしこまりました」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0090z/>

土と火の戦士

2011年12月1日22時47分発行